

令和4年度
議会報告会開催に伴う提言書

令和5年2月
栃木市議会

提 言 書

本市議会では、議会の活動をお知らせするとともに、市民の皆さまからご意見やご提案をお聞かせいただくため、議会基本条例第8条の規定に基づき、議会報告会を開催しています。

今年度は、ウィズコロナ時代の新しい議会報告会の開催方法として、書面や動画等のさまざまな方法により報告を行うことで、市民から幅広く報告事項や市政全般に関する意見の集約を行いつつ、議会として課題を設定し、それに関係する市民等と意見交換を行うこととしました。今回の課題は「若者世代の投票率の向上」とし、市内高校生を対象とした意見交換会をワークショップ形式により開催しました。

このような取組の中、市政全般にわたり、貴重なご意見・ご要望を数多くいただいたところであります。今般、いただいたご意見・ご要望の中から、議会として特に喫緊の課題と考える事項について提言いたしますので、市といたしましても、十分にご配慮いただき、今後の市政運営にあたられますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本市議会といたしましても、議会報告会でいただいたご意見・ご要望については、一般質問での政策提言や常任委員会等での審査を通して、議員活動に生かせるよう積極的に取り組んでまいります。

令和5年2月24日

栃木市長 大川 秀子 様

栃木市議会議長 中島 克訓

提言事項一覧

- 提言事項1 原油価格・物価高騰に対する支援について……………1頁
- 提言事項2 消防団員の確保について……………2頁
- 提言事項3 子ども食堂との連携による支援について……………3頁
- 提言事項4 A L Tを活用した英語教育の更なる向上について……………4頁
- 提言事項5 管工事業者と行政の連携による体制強化について……………5頁
- 提言事項6 若者にとって魅力的なまちづくりについて……………6頁

提言事項 1	原油価格・物価高騰に対する支援について
<p>【市民の意見・要望等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月々の支出が増え、抑制しなければならないことが増える。 ・ 物価が高騰しているので、家計に影響が出ている。プレミアム商品券をまた販売してほしい。（過去に購入できたことがないので、初めて購入する方優先など） ・ 食料費と光熱費、ガソリン代と物価が上がりすぎのため生活がしづらく、子ども達の支援をもっと手厚くしてほしい。年金受給者も医療費の負担が大きく補助が欲しい。 ・ 子育てに必要なものが値上げされている。 ・ 低所得者のみならず、個々の生活事情はあると感じている。 ・ 給付金、補助金はありがたいが、将来的な取組について提案がほしい。 ・ 事業者だけでなく、個人への補助も必要ではないか。 ・ 影響を受けているのは一部の事業者や家庭ではないので、幅広い対策をしてほしい。 ・ 施策に対する具体的な内容を、末端の市民まで伝えられているか疑問。（高年齢者など） ・ 補助金による効果分かるような結果が知りたい。 	
<p>【議会としての提言】</p> <p>①生活者の目線に立った効果的かつ公平な支援の実施</p> <p>議会報告会で行った市民へのアンケートによると、多くの市民が今般の原油価格・物価高騰の影響を受けており、特に日常生活に密接な食料費や燃料費等の高騰が家計を圧迫し、その他の支出を抑制していることが伺える。</p> <p>原油価格・物価高騰に対する家計への負担を軽減し、社会経済活動を活性化させるためにも、生活者の目線に立った効果的な支援を行うこと。また、市民からは、これまでの支援が一部の事業者や家庭に限られていることに対する不公平感を訴える意見も寄せられていることから、支援の検討を行う際には十分考慮すること。更に、支援の内容については、市民に分かりやすく周知を行うこと。</p> <p>②支援による効果の検証と市民への説明</p> <p>市はこれまでも新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を活用し、様々な支援を行ってきたが、市民からは効果が見えないといった意見が寄せられていることから、これまでの支援に対する効果を十分に検証し、結果を公表するなど、市民に対して丁寧な説明を行うこと。</p>	

提言事項2

消防団員の確保について

【市民の意見・要望等】

テーマ：栃木市消防団組織の活動状況と課題について

- ・ 高齢の団員が増えており、団員の確保が一番の課題である。
- ・ 近年はサラリーマンの方が団員になることも多く、昼間の火災などではどうしても出勤してもらえずに、人手不足になることもある。できれば自営業の方を勧誘したいが、なかなか人が集まらず大変苦慮している。
- ・ 小中学校などで授業の合間などに少し消防団の紹介や活動の内容を知っていただく時間帯を設けるなど、ある程度前から消防団について少し触れていると、入団のしやすさにつながるのではないかと思う。
- ・ 団員が確保できたとしても、日中の火災や災害については出動できる方が減少しているため、火災・災害時に出動できる可能性の高い団員を確保するという意味で、災害活動に特化した機能別消防団員を起用するように各分団に働きかけを行っていきたい。
- ・ 以前は小学校で防災訓練や避難訓練などが開かれていた。災害なども多くなってきている中で、地域の消防団が学校を訪問して子どもたちと防災訓練等ができれば良いと思う。
- ・ サラリーマン団員の場合、仕事の途中で抜けることをとても言い出せる雰囲気ではない。多くの出勤団員を確保するためには、企業に対して消防団活動の理解を深めていただくことを行政にお願いできればと考えている。
- ・ 機能別消防団員は日中の火災の際などに大変効果があるので、消防団のOBの方を対象に勧誘を行い、携わっていただいている。とても頼りになる存在であるため、今後も積極的に勧誘し、活動していただきたいと考えている。

【議会としての提言】

消防団については、団員の高齢化が進んでいることに加え、サラリーマン団員が増えたことにより、昼間の火災等の場合に人手が不足するなど、組織的な課題を抱えており、団員の確保は喫緊の課題である。

①消防団への理解促進に向けた取組の実施

消防団員を確保するためには、消防団の活動に対する地域住民や企業の理解を得ることも必要であることから、地域や学校と連携し、消防団の活動の意義を知ってもらう機会を設けることや企業に向けた働きかけを行うなど、理解促進に向けた取組を行うこと。

②機能別消防団員の積極的起用

消防団は消火活動や救助活動だけでなく、災害時の避難誘導や安否確認、広報活動等の様々な活動を行っている。このような多岐に渡る活動は消防団員を志す者には負担が大きく、団員の確保を妨げる一因となっていることから、消防団のあり方を検討し、消防団の活動を補完するため、特定の任務や役割を担う機能別消防団員を積極的に起用すること。

提言事項3

子ども食堂との連携による支援について

【市民の意見・要望等】

テーマ：子ども食堂の現状と課題について

- ・ 食材に関して、野菜類は提供していただける機会が多いが、肉類、容器類は自前で用意しなければならない。価格が高騰していることもあり、募金や助成金を活用しているが、費用的な問題が生じている。
- ・ 子どもの参加者が多いほど、調理や見守りのスタッフの人数が必要になり、ボランティアで確保するのが課題である。
- ・ 子ども食堂の運営に市の施設を利用しており、利用料を減免してもらえらることから非常に助かっている。しかし、現在は特定の場所で、限られた日数での活動が主であり、理想としてはどの地域にも子ども食堂があって、どこの地域の子どもたちも好きな時に行けるのが理想である。
- ・ 団体としては、行政から支援の必要な家庭の情報がもらえるわけではないので、参加者それぞれの家庭状況が分からず、本当に支援を必要としている家庭に支援が届いているのかが分からない。行政が支援を必要としている家庭の情報を団体に提供するのは難しいと思うので、支援が必要な家庭に、子ども食堂の活動を伝えるといったアプローチをしていただきたい。
- ・ 行政が中心となって、団体同士、団体と行政が連携をし、情報交換が行えるネットワークの仕組みを作ってほしい。

【議会としての提言】

①子ども食堂の活動の周知

本市の子ども食堂は地域住民やNPO法人等によって運営され、子どもの貧困対策や地域の交流拠点といった役割を担っているが、支援を必要とする家庭の情報がないために、そのような方への支援ができないといった課題を抱えている。

市が保有する情報を子ども食堂に提供することは困難であるが、子ども食堂の活動を知らないために利用していないという状況が生じないように、民生委員・児童委員や学校と連携し、支援を必要とする家庭に子ども食堂の活動の周知を行うこと。

②行政や子ども食堂運営団体間のネットワーク整備

子ども食堂は子どもたちの身近な場所にあつて、いつでも利用できることが理想であるが、現状では主に特定の場所で限られた日数での活動となっていることに加え、それぞれが個別に活動を行っていることから、子ども食堂の更なる充実を図るため、行政や子ども食堂を運営する団体間で連携し、情報交換をするためのネットワークの整備について検討すること。

提言事項4

ALT を活用した英語教育の更なる向上について

【議員の所感】

テーマ：千塚小学校現地視察会（ALT の授業）

- ・ 授業内容について、さまざまな工夫を凝らし、児童に飽きさせずに興味を持たせる取組が行われていたことが印象に残った。担任教師とALT の意思疎通や手作りの教材などしっかりとした準備が行われており、同じ授業を担任一人で実施しようとしたら相当な負担になるように思える。一番重要な授業の理解度が下がるリスクと教員の働き方改革を踏まえると、ALT を増員すべきと思う。
- ・ ALT の方の正しい発音を初期から身に付けていくことは、これからさらに積み上げていく英語（外国語）のために非常に有効である。しかし、ALT、もしくは先生単独の授業で、クラス全員の外国語への興味を継続させるのは難しいと感じた。やはりチームミーティングの重要性を再認識した。
- ・ 9月の産業教育常任委員会における「今後のALT活用はAIとの兼ね合いを考えながら採用人数を検討していきたい」という答弁が無用であると感じざるを得ない。AIが不要ということではなく、ALTを十二分に配置しながら、更にAIを活用するのが絶対的に児童の外国語の習熟に有効であると感じる。
- ・ グローバルな人材を輩出するためにも、ネイティブな英語に触れる機会を増やすことは重要である。また、日本人の先生とALTの先生の2人で、会話や掛け合いを見せられることも大きな利点であると感じた。
- ・ タブレット端末や映像で見る会話とは全く違うものであり、ALTを増やすことはグローバル教育には非常に重要なことである。現場でも増やしてほしいとの意見もあった。
- ・ ALTは短期よりも、長期的に学校に留まり、その地域に溶け込むことも必要であると感じた。

【議会としての提言】

英語教育において、子どもたちに英語を使ったコミュニケーションに直接触れる機会を提供することは、グローバルな人材を育成するためにも必要なことである。本市においては、ALTと担任教師が連携して入念な準備を行い、子どもたちに英語に興味を持ってもらえるように手作りの教材を作成したり、音声や映像ではない実際の会話を見せたりと、極めて質の高い授業を行っている。このような授業は、学校に溶け込んだALTのサポートがあってこそできることであり、担任教師単独では負担も大きく、質の確保は困難である。

子どもたちが英語を使ったコミュニケーションに直接触れる機会を提供するため、1校1人のALTを配置し、積極的に活用することで、本市の英語教育の更なる向上に努めること。

提言事項5

管工事業者と行政の連携による体制強化について

【市民の意見・要望等】

テーマ：管工事業関連事業における現状と課題について

- ・ 経営者及び従業員の高齢化が問題となっている。労働条件が厳しいこともあり、若手の従業員が少なく、現場で作業を行う従業員の確保が難しくなっている。
- ・ 組合に加盟している会社の従業員が毎年減少している。事業を継承する後継者がいない組合員もいるため、今後組合員数が減少する可能性がある。
- ・ 住民に悪質業者等とのトラブルを回避する意識が強くなり、工事の理解を得づらいため、それによって作業効率が悪化し、作業単価だけでは赤字になることもある。
- ・ 大きな災害に備えるためには現在上下水道局がある園部浄水場拠点だけでは、十分なスペースが確保できないのではないか。配水管や修理の材料、機材、給水タンク車等を十分に備えられる敷地がさらに必要なのではないか。
- ・ 災害応援等に対応する災害対応班を編成し、行政と組合が一体となって体制を整え、シミュレーションを行うなどしてはどうか。
- ・ 組合員が各地域にいるため、簡便な維持管理等の委託を行い災害時等においても、各地域の組合員がすぐに該当施設に行けるような体制の構築をお願いしたい。
- ・ 行政だけでは災害対応が難しく、民間だけでは連絡が取りづらいことなどが挙げられるため、官民一体で現場に行かないと実質的な災害対応は難しい。
- ・ 漏水修理等で各家庭を訪問する際には管工事組合であることが分かるようにベストと腕章を着用しているが、勝手に入ってきたなどの苦情が市に入る場合がある。請け負った人が丁寧に説明しなければならず、作業にかかる費用に対して手間が合わなくなっている。行政に周知の努力はしていただきたいが、広範囲のため周知が難しいのではないかと。

【議会としての提言】

①災害に備えた取組の推進

管工事業をめぐっては、近年、従業員の高齢化等により担い手が不足していることに加え、原材料等の価格も高騰しており、厳しい状況に置かれている。このような状況が続いた場合、今後組合員数が減少し、特に大きな災害が起こった際の対応が困難になるおそれがある。

災害対応は単独の自治体だけ、民間だけで行うには限界があることから、大きな災害が起きた場合でも速やかな復旧ができるよう、行政と組合が連携し、近隣の自治体との応援体制の整備や資機材等の確保など、災害に備えた取組を行うこと。

②工事の理解促進に向けた更なる周知の検討

事業者が漏水修理等で各家庭を訪問した際に、住民が悪質業者とのトラブル回避を意識するあまり、工事の理解を得られずに作業効率が悪化しているという状況が生じている。

現在も管工事組合のベスト・腕章の着用や、広報とちぎでの周知等を行ってはいるものの、工事への理解が進んでいないことから、更なる周知に向けた検討を行うこと。

提言事項6

若者にとって魅力的なまちづくりについて

【高校生の意見・要望等】

テーマ：もし私が栃木市議会議員になったら

- ・ 道路脇の雑草が道路にはみ出さないようにする。
- ・ 道路の舗装をしたい。（横断歩道に雨天時に水がたまる場所がある）
- ・ 栃木市は夜暗くて怖いので街灯を増やしたい。
- ・ 住宅地で死角が多いので、ミラーを増やす。
- ・ 電車の本数を増やしたい。（両毛線が1時間1本しかないため）
- ・ 学校直通バスの設置。
- ・ 駅、バス停を増やして、栃木市の中心地に行きやすくしたい。
- ・ ふれあいバス高校生以下無料！！
- ・ 駅周辺に自習スペースや軽食の食べられる場所。
- ・ 駅の近くに人が集まれるようなものを作る。
- ・ 若い人が集まるようなイベント、商業施設が欲しい。
- ・ 栃木駅南口が北口に比べてお店の数などが少ないと感じる。
- ・ 学校同士の交流を増やしたい。
- ・ 高齢者と若者の交流を作る。

【議会としての提言】

①安全・安心な通学路の整備

市内の8校と開催した高校生との意見交換会では、多くの高校生から「道が暗くて怖い」「道路がでこぼこしている」「草が伸びている」などの通学路に関する意見が出されており、通学路の安全面での課題が浮き彫りとなった。

通学路は広範囲に及ぶため、財政状況が厳しい中ですべてに対応することは困難だが、危険箇所の洗い出しを行ったうえで、計画的に街灯の増設、道路の修繕等を行い、安全・安心な通学路の整備を進めること。

②公共交通の利便性向上

市内の高校には市外からも多くの学生が通学しているため、公共交通に関する意見も多く出されたところである。

鉄道については、特に両毛線の運転本数の増加を求める意見が多く出されていることから、鉄道事業者に対して、朝夕の通勤・通学時間帯を中心に更なる運転本数の増加について要望を行うこと。

また、ふれあいバスについても、運行本数の増加や高校直通バスの運行等の意見が出されていることから、運行内容等の見直しを行う際には、高校生の目線にも立ち、更なる利便性の向上を図ること。

③栃木駅周辺エリアを中心とした街なかの更なる賑わい創出

栃木駅は本市の玄関口として、多くの市民や学生、観光客が集う場所である。近年、栃木市観光交流館「蔵なび」等の整備が進められてきたが、高校生からは「商業施設を誘致

してほしい」「映画館がほしい」「自習場所がほしい」「栃木駅南口をもっと賑やかにしてほしい」といった意見も出されていることから、栃木駅周辺エリアを中心とする街なかの更なる賑わいの創出に向けた取組を推進すること。

また、現在の高校生は入学したときからコロナ禍であり、人との交流が制約されてきたことから、学生間の交流イベントなど、人との交流を求める意見が多く出されている。感染予防対策をしっかりと行いつつ、学生にとって魅力的なイベントの実施について検討すること。